



大阪教育合同労働組合 講師協議会 第2015号 大阪市中央区北浜東1-17 日本ワードデータビル4階 06-4793-0633

府教委に雇用責任を迫る！

一ヶ月の雇用確保の実現

4月に失職し、待機中であつた講師組合員のAさんが、9月末から約1ヶ月の病休代替講師に入りしました。

Aさんは「公務災害中」であるにもかかわらず、四月からの採用がなく待機する中で、認定されていた公務災害も、まだ通院加療中であるにもかかわらず認定を終了されるといふ不当な決定を受けました。

組合は当該市教委と府教委に交渉を申し入れて、市教委交渉府教委交渉を行いました。府教委交渉の中で、府教委の雇用責を厳しく追求しました。また、労災基金にも不服申し立てを行

いました。

こうした中で、一ヶ月余りの病休代替講師の口をまわしてきたのです。とりあえず一ヶ月の仕事の確保ができたものの、その後の保証はなにもありません。さらにAさん以外にも、待機中の講師組合員もいます。講師の生活を守るためには、「採用のルール」を確立させることが必要です。職を求め闘いをさらに強めていかなければなりません。



10月講師協議会

10月の講師協議会を下記のように開きます。定期交渉に向けて戦術を議論していかなければなりません。多数の参加を期待しています。

記

- 日時 10月19(土) 2時～
- 場所 組合事務所
- 議題
- 1) 府教委との定期交渉について
 - 2) その他

ワークシェアリング 先任権 について学習会開く

講師協議会で「ワークシェアリング・先任権」について学習会を6月と7月に開きました。以下に2回に分けて報告します。

一回目は、6月22日に13名の出席で、「ワークシェアリングによる講師の正採化」と題して、山下委員長の報告を中心に、各出席者から活発な意見が出されました。この学習会で確認できたことは、最終目的（戦略）として講師制度の全廃に向けて動くということです。そこに至るまでの戦術としてどう取り組むかについて意見が分かれませんでした。講師の正採化だけではまだ不十分どころが、ヘタをすると講師制度の温存につながりかねないとの指摘もありました。（現に東京都の例がある）

パートの正採登場

しかし今年には新たな動きがありました。それは「再任用制度」です。これはパートタイムの時間労働者でありながら正採なのです。ワークシェアリングの考え方にヒントをもたらす雇用形態といえないかという意見です。つまり、フルタイムは従来から正採で、パートタイムは有期雇用であるという考え方はなく、パートタイムも正採、無期雇用で雇うというのです。このへんに何か突破口が見出されないだろうかと言つ考へが

出されました。

又、ワークシェアリングとはそもそもどういう経緯で生まれてきたのかという歴史についての説明があったり、オランダモデルについての考え方の意見交換がなされました。

教育とワークシェアリング

しかし、教育現場でワークシェアリングという形態がそもそもうまく機能するのかわく疑問の声もありました。例えば担任の仕事にしても、午前と午後のパートとフルタイムの入れ替え制では、生徒指導や家庭訪問といった場合の引継ぎがはたしてうまくいくだろうかという問題です。

ワークシェアリングは講師の問題よりも正採の教師の問題ではないのか、と言つた意見も出されました。ワークシェアリングでは講師制度の廃止にはつながらないのではないかと意見も出されました。

それから、ワークシェアリングは労働時間の問題という側面よりも、日本の賃労働の差別構造で、身分制としての臨時雇用、パート労働というものがあって、講師とワークシェアリングは切り離して考えたほうがいいのではないかという意見もありました。

オランダモデルもオランダの歴史、風土、国情から出てきたものでそれをそのまま日本にあてはめられないのではないかという意見もありました。また、どうすれば講師の新規登録を止められるのか、有期雇用をなくすためにはどんな運動の展開

が考えられるのかが我々に問われているといえるでしょう。

次に、ワークシェアリングをどっちの側から見るのか、組合としては、職を増やせと要求し正採の労働を減らして、その分を講師にまわし、講師を正採にしていくという主張を繰り返して言っていくしかないと言つ考へも出されました。

ワークシェアリングとは、1つは、職のパイを増やし、一方給料は減るが時間に余裕がもてるというメリットがあるという事をみんな（正採もパートも）がどう分かちあえるか、現に今正採の人がその事をどう理解し協力してくれるかにかかっているといえるのではないでしょう

か。

講師制度廃止と正採化

日本ではまだまだワークシェアリングの歴史が浅く、多くの問題や疑問点が残っています。講師制度の廃止と講師の正採化に向けた具体的な戦術として、ワークシェアリングの考え方が使えないか今後も広く学習と議論を続けていかなければならぬという事を確認して、今回の学習会を終わりました。

